

# 8月の農薬

No. 5 - 1

令和3年8月1日

## 『農薬』の使用による『みつばち』への危害を防ぎましょう。

○農薬を使用する場合、近隣のみつばち飼育の有無を確認しましょう。

※みつばち飼育の情報は、山形県農林水産部畜産振興課（TEL:023-630-2435）にお問い合わせください。

○みつばち飼育者に対して、農薬散布の情報（散布時期、時間帯、薬剤の種類・名称など）を事前に提供しましょう。

### 水 稲

#### 県のカメムシ防除に係る指導内容

- ①防除適期は、穂揃期と穂揃期の7～10日後の2回。
- ②ネオニコチノイド系薬剤を使用する場合は、穂揃期7～10日後が最適。
- ③日頃から、畦畔、農道の除草に努める。
- ④出穂前の除草はカメムシ類の水田内侵入を助長するので行わない。  
なお、やむを得ずこの時期に除草する場合は、防除計画と合わせて行う。

時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	効果	使用方法、使用量	
8月上旬(出穂期)・8月上中旬(穂揃期)・8月中下旬	ダブルカット粉剤 3DL	3kg	-	穂いもち(第1回一穂孕後期)	治・予	いもち病の発生が例年以上となっております。既に発生が見られている圃場では、治療効果のある剤を散布してください。10a当り3～4kg散布する。	
	ラブサイド粉剤 DL		-		予防		
	ビーム粉剤 DL		-		予防		
	ノンプラス粉剤 DL		-		治・予		
	ブラシン粉剤 DL		-		治・予		
	ノンプラスフロアブル	500ml	-	穂いもち(第2回一穂揃期)	治・予	※カスミン剤は連用しない。	
	ダブルカットフロアブル		-		治・予	1,000倍(100ml/100ℓ)を10a当り120ℓ散布する。	
	トライフロアブル		-		治・予		
	カスミン液剤		-		治・予		
	ラブサイドフロアブル		-		予防		
ビームゾル	○	予防	※カスミンおよびダブルカット単剤、混合剤は使用時期「穂揃期まで」を厳守する。				
8月上旬(出穂期)・8月中下旬	バリダシン粉剤 DL	3kg	-	紋枯病	10a当り3～4kg散布する。	10a当り3～4kg散布する。	
	モンカットファイン粉剤 20DL		-				
	バシタックゾル	500ml	-				1,000倍(100ml/100ℓ)を10a当り120ℓ散布する。
	モンカットフロアブル	500ml	-				
8月上中旬(出穂期)・穂揃期	キラップ粒剤	3kg	-	カメムシ類	出穂期～穂揃期に使用する。キラップ粒剤、スタークル粒剤は3kg/10a、ダントツ粒剤は3～4kg/10aを湛水散布する。	10a当り3～4kg散布する。	
	スタークル粒剤	3kg	-				
	スミチオン粉剤 3DL	3kg	-	カメムシ類(イネアオムシ)	10a当り3～4kg散布する。	1,000倍を10a当り120ℓ散布する。	
	トレボン粉剤 DL		-				
	MR.ジョーカー粉剤 DL		-				
	スミチオン乳剤		500ml				-

時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	使用方法、使用量		
8月上旬(出穂期)・中旬(穂揃期)	トレボン乳剤	500ml	-	斑点ムシ米類	トレボン乳剤は2,000倍、トレボンEWは1,000倍で散布する。合ピレ剤なので、蚕毒に注意する。		
	トレボンEW	500ml	-				
	MR.ジョーカーEW	500ml	-			2,000倍で使用する。	
8月中下旬(穂揃期の7～10日後)	キラップ粉剤 DL	3kg	-	斑点ムシ米類	10a当り3～4kg散布する。		
	キラップ微粒剤 F		-				
	スタークル粉剤 DL	3kg	-			10a当り3kg散布する。	
	キラップフロアブル	500ml	-			2,000倍、10a当り120ℓ散布する。	
	スタークル液剤 10		-			1,000倍、10a当り120ℓ散布する。	
	エクシードフロアブル	500ml	-			2,000倍、10a当り120ℓ散布する。	
	ラブサイドスタークル粉剤 DL	3kg	-			穂いもち米類	10a当り3～4kg散布する。
	トライスタークル粉剤 DL	3kg	-				
	トライ K 粉剤 DL	3kg	-				
	ブラシダントツ粉剤 DL	3kg	-				
ブラシキラル粉剤 DL	3kg	-					
8月上旬(出穂期)・8月中旬(穂揃期)	ノンプラスバリダ粉剤 DL	3kg	-	穂紋枯病	10a当り3～4kg散布する。		
	ブラシントレバリダ粉剤 DL	3kg	-	穂ウシカメムシ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 イナゴ	10a当り3～4kg散布する。		

○合成ピレスロイド剤（トレボンEW、乳剤、粉剤DL）は、蚕、魚類に対する毒性が特に強いので、桑園、養魚池、河川の近くでは使用しない。また、MR.ジョーカー剤、ダントツ剤、スタークル剤は蚕に対する毒性が特に強いので桑園の近くでは使用しない。（県防除基準合成ピレスロイド剤等安全対策（7頁）参照）  
※カスミンおよびカスラブサイド・ダブルカット単剤、混合剤については、使用時期が「穂揃期まで」となっておりますので、穂揃期以降に使用させない様注意して指導をお願いします。

### おうとうのカイガラムシ対策の中心薬剤 アプロードフロアブルの適用作物および害虫（プロフェジン 200%）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	散布液量	使用時期	総使用回数*
おうとう	カイガラムシ類幼虫	1,000～1,500倍	200～700ℓ	収穫7日前まで	2回以内

- 特長**
- 幼虫の脱皮を阻害し、齢末期～脱皮時に死亡させる昆虫成長制御剤である。
  - 殺成虫力はないが、未ふ化卵を産下させる作用をもつため、次世代の増殖を少なくし密度抑制に寄与する。
  - 多くの天敵に対して悪影響がなく、天敵の保護・活用場面にも適した薬剤である。
  - 哺乳動物に対する毒性は極めて低く、高度な選択性を有する。
  - フロアブル製剤のため薬剤の秤量しやすく、作物に対する汚れも少ない。

#### おうとうのカイガラムシ防除の考え方と防除時期

- 本来は休眠期と5月下旬から6月上旬の第1回目の孵化期が防除時期となるが、おうとうの場合収穫期と重なる場合があるため7月下旬から8月上旬にかけての第2回目の孵化期に防除する。また、発生密度が高く多発している場合はスプラサイド水和剤等の有機リン剤と体系防除を行う。

#### カイガラムシの発生予察法について（8月上旬～中旬の孵化期防除のために）

- 予察方法
  1. カイガラムシが発生している枝の上方にビニールテープを巻き付ける。（テープの色は赤、黄色系は避けたほうがよい。）
  2. 巻きつけたテープの上に両面テープを取り付ける。
  3. あまり長い間放置すると粘着力が弱くなるので定期的に両面テープを取り替えながら、幼虫の発生状況を確認する。
  4. カイガラムシの幼虫はオレンジ色をしている。
  5. 取り付けは8月5日までに完了する。

・本資料は防除の一例です。気象条件や作物の生育状況をふまえ、県関係機関にご相談のうえ、現場に沿った適正な防除指導をお願いいたします。  
・農薬は登録内容が変更になる場合がございます。使用前に再度登録内容をご確認のうえ、ご使用いただきますようお願いいたします。



もっと近くに。

全農山形県本部 生産資材部

電話番号 023-687-8700

FAX番号 023-634-8182

農薬はJAマークの製品を！

先入れ先出しの励行を！

# 8月の農薬

No. 5 - 2

令和3年8月1日

農作業前の農機具の点検確認やドリフト対策をしっかりと行い安全で適正な防除に努めましょう。

## りんご

- ・斑点落葉病の重点防除時期です。
- ・殺ダニ剤はハダニの発生初期に散布する。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
8月上旬	※ 殺虫剤			シンクイムシ類 (クワコナカイガラムシ類)	下記のいずれか		混用 いずれかを殺虫剤と混用し散布
	※ 有機銅剤				下記のいずれか		
	ロブール水和剤	500g	-	斑点落葉病	1,500倍 67g	700ℓ 467g	
	ナリアWDG	250g	-		2,000倍 50g	700ℓ 350g	
	ベルコートフロアブル	500ml	-	黒斑病 星落葉病	1,000倍 100ml	700ℓ 700ml	
展着剤							
8月下旬	※ 殺虫剤			モモンクイガ モンホソガ	下記による		
	※ 有機銅剤			黒斑病 星落葉病			
	展着剤						

・ストロビードライフロアブルは混用可能が確認された薬剤のみ使用する。おうとうには葉害の恐れがあるので飛散しない様に注意する。

・ストロビードライフロアブルは、スミチオン、オマイトとの混用は避ける。(葉害)

### ※ 有機銅剤

農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
オキシラン水和剤	500g 1.67kg	-	斑点落葉病	600倍 167g	700ℓ 1,167g	いずれかを使用する。
オキシンドー水和剤80	500g 835g	-	黒斑病 星落葉病	1,200倍 83g	700ℓ 583g	
ドクリンフロアブル	500ml	-		1,000倍 100ml	700ℓ 700ml	

### ※ 殺虫剤

農薬名	規格	譲渡書	モモンクイガ	キンモンホソガ	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	ボルドー混用	備考
スタークル顆粒水溶剤	250g 500g	-	○	○	2,000倍 50g	SS 600ℓ 手散布 700ℓ	○	いずれかを使用する。
バリアード顆粒水和剤	100g 250g	○	○	2,000倍 50g	○			
サイアノックス水和剤	500g 1kg	-	○	○	1,000倍 100g		×	
エクシレルSE	200ml 500ml	-	○	○	5,000倍 20ml		○	

Ⓞ 早生種の収穫前日数に配慮して、使用してください。

○可、×不可

### ※ 8月のりんご殺ダニ剤

農薬名	規格	譲渡書	リンゴハダニ	ナミハダニ	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	ボルドー混用
コロマイト水和剤	500g	-	◎	◎	2,000倍 50g	SS 600ℓ 300g	○
マイトコーネフロアブル	500ml	-	△	◎	1,000倍 100ml	SS 600ℓ 600ml	×
ダニゲッターフロアブル	250ml	-	◎	◎	2,000倍 50ml	SS 600ℓ 300ml	×

※ ダニゲッターフロアブルは、水稻の開花時期に穂に葉害を生じる恐れがあるので注意する。

## ぶどう

さび病、褐斑病、べと病防除のため棚面上、下から十分散布する。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
収穫直後 デラウェア	ICボルドー(66D)	5kg	-	さび病 (褐斑病)	50倍 2kg	250ℓ 5kg	雨の多い場合 いずれか棚上散布
大粒種 8月上旬 中旬	ダントツ水溶剤	125g 250g	-	フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類	2,000倍 50g	250ℓ 125g	
	ICボルドー(48Q)	5kg	-	べと病	50倍 2kg	250ℓ 5kg	
	コロマイト水和剤	500g	-	ハダニ類	2,000倍 50g	250ℓ 125g	

## もも

中、晩生種の灰星病(ホモプシス腐敗病)とシンクイムシ、モモハモグリガ、カイガラムシの防除適期です。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
8月上旬	スプラサイド水和剤	500g	○	シンクイムシ類 カイガラムシ類	2,000倍 50g	400ℓ 200g	混用し散布する いずれか
	ロブール水和剤	500g	-		1,500倍 67g	400ℓ 267g	
	ナリアWDG	250g	-		2,000倍 50g	400ℓ 200g	
	ベルコートフロアブル	500ml	-	灰星病	2,000倍 50ml・g	400ℓ 200ml・g	
	オンリーワンフロアブル	250ml	-		5,000倍 20ml	400ℓ 80ml	
インダーフロアブル	100ml	-					

## 西洋なし

・輪紋病とシンクイムシの重点防除時期です。  
・殺ダニ剤はハダニの発生初期に散布する。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
8月上旬	オキシラン水和剤	500g	-	輪紋病 (炭そ病)	600倍 167g	600ℓ 1,000g	いずれか 混用し散布する
	ドクリンフロアブル	500ml	-		1,000倍 100ml	600ℓ 600ml	
	ストロビードライフロアブル	250g 500g	-		2,000倍 50g	600ℓ 300g	
	サムコルフロアブル10	200ml	-	シンクイムシ類 ハマキムシ類	5,000倍 20ml	600ℓ 120ml	いずれか
	アグロスリン水和剤	500g	○	1,000倍 100g	600ℓ 600g		
※ 殺ダニ剤							
8月中下旬	オキシンドー水和剤	500g 835g	-	輪紋病	1,200倍 83g	600ℓ 500g	いずれか 混用し散布する
	ナリアWDG	250g	-	黒斑病、 輪紋病、うどんこ病	2,000倍 50g	600ℓ 300g	
	スタークル顆粒水溶剤	250g 500g	-		2,000倍 50g	600ℓ 300g	
	エクシレルSE	200ml 500ml	-	シンクイムシ類	5,000倍 20ml	600ℓ 120ml	
	展着剤		-				

ストロビードライフロアブルは単用散布、おうとうには葉害の恐れがあるので飛散しない様に注意する。

### ※ 殺ダニ剤

薬剤名	使用濃度	使用時期		対象のハダニ		ボルドー液との混用	注意事項
		7月	8月	リンゴハダニ	ナミハダニ		
コロマイト水和剤	2,000倍		○	◎	◎	×	ル・レクチュエに葉害の恐れ
マイトコーネフロアブル	1,000倍	○	○	◎	◎	×	ボルドー液との間隔を前後2週間以上あける
ダニコングフロアブル	2,000倍	○	○	◎	◎	×	

※ 抵抗性回避のため殺ダニ剤は連用しない。

## おうとう

・ウメシロカイガラムシの2世代およびハダニの防除適期です。  
・殺ダニ剤はハダニの発生初期に散布する。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
8月上旬・中旬	ICボルドー66D	5kg	-	せん孔病	40倍 2.5kg	700ℓ 17.5kg	いずれかと混用する
	ドクリンフロアブル	500ml	-		800倍 125ml	700ℓ 875ml	
	スプラサイド水和剤	500g	○	カイガラムシ類	1,500倍 67g	700ℓ 467g	単用散布
	アブロードフロアブル	500ml	-	カイガラムシ類幼虫	1,500倍 67ml	700ℓ 467ml	
	マイトコーネフロアブル	500ml	-	ハダニ類	1,000倍 100ml	700ℓ 700ml	ボルドー液との間隔を前後2週間以上あける
コロマイト乳剤	500ml	-		1,000倍 100ml	700ℓ 700ml	単用散布	

## かき

アザミウマ(スリップス)の最後の防除は8月上旬です。

散布時期	農薬名	規格	譲渡書	主な対象病害虫	倍水100ℓ 当り薬量	10a当り 散布量	備考
8月中旬	アミスター10フロアブル	500ml	-	うどんこ病 炭落葉	1,000倍 100ml	500ℓ 500ml	アザミウマの多い園地では、ロディー水和剤に変更
	スプラサイド水和剤	500g	○	カキクダアザミウマ カイガラムシ類	1,500倍 67g	500ℓ 333g	
展着剤							